

カナダに於ける歯科教育の歴史 第10報 —1915～1919年間の歯科及び歯科教育の貢献者像—^{*1}

尾島 光栄^{*2} Kenji Kenneth SHIMIZU^{*3}

要旨：1～9報^{1～9)}に引き続いて、1915～1919年の5年間、特に第1次世界大戦を中心にカナダの歯科及び歯科教育、特に軍事歯科教育を中心に貢献した諸人物像を登場順に紹介して¹⁰⁾、この時代背景の日本に於ける歯学・社会・文化史¹¹⁾ (Fig. 1) を参考のために掲載した。

Key words：歯科学 Dentistry, 歯科教育歴史 History of Dental Education, 歯科教育貢献者 Contributor of Dental Education

1. 主な登場人物—登場順—

1915～1919年の5年間に登場して活躍した登場人物名を登場順に記載すると、Ira Bower—W. T. Hackett—J. M. Magee—George Kerr Thompson—G. H. A. Stevenson—L. H. Thornton—Earl M. Laurin—John McCrae—E. B. Sparks—Sir Sam Hughes—J. Alex Armstrong—Ernest Hemingway—H. E. Bulyea—Harold Keith Box (Fig. 2)—Arabelle Mackenzie等である。

2. War years (1915～1919)

国家としてのカナダは大体20年間隔で勃発す

る三大戦争（南アフリカ戦争、第一次大戦、第二次大戦）に巻き込まれ、それらの戦争は国全体を扇動し、文化、学術、経済や各種の職業にも例外なく急激な変化が待っていた。

整備された歯科軍団の設立までは長い道程であったが、1900年に初めて2人の歯科医の海外派遣の決定が行なわれた。

1902年Canadian Dental Association (CDA)の軍隊員に対する歯科治療に関する設立委員会でのIra Bowerの強い意見があった。また軍隊の独立した歯科部隊としての経済的な援助に対して、CDAは困難を極めたので、全ての歯科組織に熱心な支援を依頼した。

1904年7月Army Medical Serviceは2分隊Army Medical DepartmentとRegimental Medical Serviceに分割され、前者はMedical StaffとArmy Medical Corpsで構成され、後者はPermanent Active Medical CorpsとMedical Officer, Dental Surgeon, Nursing Sisterから成るMilitia Army Medical Corpsで構成された。

地位に関してDental Surgeonは陸軍中尉で、5年の奉仕後には大尉になり（その後3年に短縮される）、構成は18名であった。

1904年9月10日、最初の任命歯科軍医としてOntario OakvillのW. T. HackettがDental

^{*1} History of Dental Education in Canada, No.10—Contributors of the Dentistry and Dental Education during the period from 1915～1919—

^{*2} Koei OJIMA, The Nippon Dental University, School of Dentistry at Tokyo, Department of Physiology 日本歯科大学歯学部生理学教室

^{*3} Kenji Kenneth SHIMIZU, The University of British Columbia, Faculty of Dentistry, Department of Clinical Dental Sciences, Division of Prosthodontics and Department of Oral Medicine and Surgical Sciences ブリティッシュ・コロンビア大学歯学部臨床歯科学、補綴学部、口腔医学・外科学部門

西暦	和暦	歯 学 史	社 会 ・ 文 化 史
1915	大正 4	花沢 鼎：象牙質の微細構造の研究 山極勝三郎、市川厚二は人工癌の発生に成功す	○1915：外山亀太郎、カイコの遺伝の研究
1916	大正 5	石原 忍：色盲検査表を新案 医師の歯科専門標榜許可の件公布 歯科医師試験官制を分布	
1917	大正 6	豊田 実：象牙質の生体染色の研究	○1917：理化学研究所創立 ロシア革命
1918	大正 7	ダンデイ：脳室撮影法を創案	○1919(大正 8)：石原 純、相対性原理の研究 結核予防法公布

Fig. 1

Establishmentから任命された。

1908年OttawaでのCDAの年会議でArmy Dental Serviceに関する最初の会議が開催され、2年後の編成会議では26人のDental Surgeonの編成に増員され、任期を終えた人には名誉大尉になる規定が定められた。

その後政府との交渉の職域代表としては、Saint JohnのJ. M. MageeとHalifaxのGeorge Kerr Thompsonが指定され、1912年の報告ではCanadaの軍大臣は世界のいかなる国の大臣よりも積極的であるといわれた。

最初の新兵の志願兵の歯科の検診では10本の疾患または欠如は不合格であった。

また最初のCanada分遣隊33,000人が海外に派遣された時には10組の歯科設備が準備されたが、歯科医数の不足で口腔検診は内科医が行い外科医が治療にあたった。

その後基地病院にEnglandから歯科装置が到着したが、所属軍隊での歯科医師の地位は不安定で奉仕の状態であり、新兵の検診には市民の歯科医の奉仕が続けられた。

基地病院の歯科診療に最初に応召した大学はMcGillで、No. 3 Canadian General HospitalとしてMcGill大学内に組織され、この部隊は35人のOfficerと75人の看護婦、その他24名から構成された。Dental Officerは2人で1人はCaptain：歯科G. H. A. Stevensonと学長の息子、L. H. Thorntonで、その他24人は歯科学学生であった。

歯科学学生の一人には2学年のEarl M. Laurinがいたが、その後Montrealの著名な歯科医となった。

軍隊の歯科診療所の活動で有名となったのは歯科第二司令のJohn McCraeで、“In Flanders

Fields”を著わして直後にオランダで肺炎で逝去した。

Queen’s大学はMcGill大学の直後に歯科医療部隊を組織し、長年Kingstonで歯科診療に従事していたE. B. Sparksが強力なCaptainとして引き続いた。

Canadaで最初の軍隊歯科診療所は1915年3月Torontoに基地を置く“Canadian Nation Exhibition”で開設した。許可は軍大臣のSir Sam Hughesでその診療所に興味を示して公的に視察に訪れている。

短時日の後に非公式に分裂したDental Corpを形成してSir Sam HughesはOttawaのJ. Alex ArmstrongをDirector of Dental Servicesとして指名したが、疑う事なく国内の歯科団体や軍司令部の強い圧力が発生した。その後にArmstrongはCanadian Army Dental Corpを組織し、その82名の歯科医達は名誉中佐として軍と結ばれ、新しく形成されたCorpの核となった。

軍で活躍していた他の歯科医達は兵役に服したが、各軍部隊の歯科医としてではなく、軍団で奉仕する歯科医として高い階級で処遇を受けた。

種々の問題があったが、1915年6月24日最初の軍隊の派遣部隊がMontrealを出発した。その構成は151名からなり、53名は卒業後の歯科医とその他は技工士達で、England到着後に診療所と技工本部がShorncliffeに設立された。

戦争が終了する前には全Canadaの歯科医の1/4は部隊のメンバーとして登録し、他は部隊外の歯科奉仕に従事した。

軍での歯科の需要に応じるために歯科の卒業生は全体が直接軍団に入り、一時Toronto Schoolは軍のための装備とStaffで占められ、市民の歯科診

療は田舎や地域では乏しくなり、都市でも大きな影響が出始めた。

1916年にはSaskatchewan立法府はDental Actを修正して、歯科臨床の経験を経た者は歯科医として診療に従事する事を許可したが、歯科のライセンスを持たない臨床家による診療で市民の一人が死去し大騒ぎとなった。

当時の軍隊での歯科診療は基本的に抜歯、硬質ゴム義歯、アマルガム充填、酸化リン酸カルシウム充填であった。

またDental Corpに直面する問題として、歯科疾患による兵士の急性胃病が深刻な問題となった。さらには外傷による顎顔面の症例で、外科医と歯科医の前例のなかった接近をもたらし、X-Rayの使用、歯科技術の紹介、多数の歯科器械や機器の開発、改良が必要になり、Army Dental Fundが設立され、市民が参加する一方では、歯科医の妻達は応援部隊を形成して、海外の歯科医のために手編みのセーター、ソックス、タバコ、その他の食物を小包みとして送付した。1917年歯科奉仕規則の改正により、Director General of Dental Serviceは陸軍大佐のランクで処遇された。England・LondonのCanadian Gazetteの報告でCanadaは世界で初めて歯科部隊を組織した国家として紹介している¹²⁾。

やがて戦争が終り兵士達の復員が社会、特に医療に関して新しい問題を引き起こした。兵士達の解雇にあたり彼らに対する医療と歯科診療は援助されねばならず、その人数は膨大で軍隊の歯科部隊は再編成されて市民の臨床のために組織された。

Federal Department of Soldier's Civil Re-establishmentは帰還兵士への歯科奉仕に関する規則を定めたが料金に関して新たな問題が生じた。その第一は歯科奉仕の制限と料金支払いの問題、第二は診療の計画は全て医療者側にある点であった¹³⁾。

1877年Lethbridge生まれのJohn S. Stewartは家族と共にOntarioから後にAlbertaになるNorth West Territoriesに移住し、彼は軍からの帰還後にTorontoのRoyal College of Dental Surgeonをへて、1903年にTrinityで歯科の学位を取得した。同年には故郷のLethbridgeで1960年ま

で臨床に従事したが、その間彼には軍での奉仕があった。

彼は1907～1908年KingstoneのRoyal Military Collegeに入学し少佐のランクで卒業した。1911年Alberta Legislative Assemblyに選出され14年間はAlbertaで活躍した。1914年戦争の勃発と同時にCanadian Expeditionary Forceに参画し、大佐に昇進し、Seventh Artillery Brigadの司令官として渡海し、1917年Canadian Artilleryの第三部隊の司令官として陸軍准将に昇進し、その後Canadian Corpでのあらゆる交戦を通じて彼の部隊を指揮し、2度も受傷した。

これらの功績により彼は多くの賞を授賞し、その賞はDistinguished Service Order, Companion of the Order of St. Michael, St. George Croix de Guerreである。1930年、彼はHouse of Commonsに選出され4年間勤めた。

1956年Lethbridge市民は彼の功績を認識して、General Stewart Schoolの名を残し、1957年Alberta大学は彼に名誉法学博士の称号を授与し、90歳でこの著名なCanadianは逝去した。

戦争期間中にも新聞は歯科と健康に関する多くの情報を発表した。当時はToronto StarのリポーターであったErnest Hemingwayはその一人である。

歯科学学生は偉大なる愛国心から軍事奉仕に捧げ教育の年限が削減されたので、退役後の多くの希望者の再教育には教育現場の拡充が必要となった。1916年のQuebec College of Dental Surgeonの議事録には学校の追加に努力する必要性が記録されている。

1918年Alberta大学は歯科の課程を組織してその秋には3名の学生を入学させた。4年課程で医学部内に設置され、最初の2年は地元で、残りの2年はRoyal College of Dental SurgeonまたはMcGill大学で教育された。翌年には応募者が課程の能力を遙かに超えて増加したので、1923年H. E. Bulyea学長の時に歯学部は独立した学部になった。

1919年の秋、TorontoのRoyal College of Dental Surgeonは80名の課程に75名の入学者を認めたが、この入学者の80%は海外での軍事活動に4年間も奉仕した者達であった。

Ontario Bordは再教育の危機に対処する準備に入ったが、応募者の実体が掴めないままに、1919年の秋の他の課程も含めて500名の学生のための準備に対して、実際には804名の学生が押しかけ、この予想外の事態に対して、Ontario Governmentに100,000ドルの増設予算を要求したが、見積もられた価格は150,000ドルであった。

その後Ontario GovernmentはEx-Service Men's Loan Fundを創設して、貸し付けの名目で経済的援助を学生に行ない、この規定には相当数の学生が恩恵を受けた。何故ならば帰還学生は正規の学生よりも遙かに年齢が高く家庭生活との両立で援助が必要であった。

戦時中の歯科助手、歯科補助者の訓練に関する新しい討論が起こり、1917年の最初のQuebec会議で歯科看護婦の訓練課程の設立が採択され、Dean WebsterはOntario Bordに忠告したので、Toronto schoolに於ける歯科看護のための1年課程が開設され、1919年秋から1960年まで続いた。特別な免許として歯科軍曹の資格が与えられ、軍曹による特別戦時課程は興味がもたれた。

Ontario Prosthetic Dental Associationの代表者は2年続けて歯科技工助手の課程の設立をOntario Bordに提出し、この会の代表者3名とBordの3名で委員会が準備されたがその後の記録はない。

1920年CDAの研究委員会はCanadian Dental Research Foundationを国家憲章のもとに発足したが、この基金は歯科研究のための経済的援助としてはわずかな額であった。

Wallace Secombeの精力的な指導のもとに全州の歯科代表者で形成された委員会が経済運動の組織作りに努力した結果、集金されたお金は信託基金に投資され、研究活動の援助に使用する基金にあてた。

多数の歯科医達が大いにこの運動に貢献し、歯科学生にも、さらには国内の歯科組織の援助にも振舞われたが、一般民衆からの関心は今一つ低く、歯科学のみならずその他の研究に対する実際の価値を認識することはなかった。そして高度な研究心のある学生や研究者に対する活動には殆ど援助の手が届かなかったが、1951年基金はResearch Council of the Canadian Dental Associationの管理下になり、実際に研究の補助が続けられた。



Fig. 2 Harold Keith Box, DDS, PHD, father of dental research in Canada

Canadaの歯科学の父はHarold Keith Box (Fig. 2) で、1914年Royal College of Dental Surgeonを卒業し、Part-Time Memberとなり、1920年には歯科病理学と歯周病学の教授に指名され、その数年後には歯周病学の研究教授になった。一方臨床にも奉仕し長時間の集中した歯科の研究を遂行し、1920年にはCanadian歯科の最高位である第一級学位 Doctor of PhilosophyがToronto大学から授与された。

Canadian Dental Research Foundationから出版された定期刊行物の著者を12年間続け、Periodontologyの世界的指導者として多数の名著を表わし、多くの有能な弟子達によって研究が継続されている。

1917年12月6日の朝、爆薬を搭載した一艘の船がHalifaxの港を襲い、約2,000名が死亡し、8,000名が負傷し、市の大部分は荒廃して、歯科診療所は殆ど破壊された。

歯科医達は病院、家、避難所での救済作業に従事し、1ヶ月間は殆ど休診したまま民衆のために時間を費やした。

直ちに救済基金と補給が政府と自発的機関から

寄せられ、Andrew Carnegie CommissionはDalhousie Universityのあらゆる損害をも償うことを、隣州Massachusettsも寛大な貢献を申し出た。

救済による残金はMassachusetts-Halifax Health Commissionとして、Public Health Campaignの教育や予防を行なう目的で残された。その活動の一環としてPre-School Dental Clinicsの設立が計画された。

1919年Dalhousie Universityの歯学部を卒業した最初の女性Arabelle Mackenzieは小児歯科医の名で歯科学に貢献した。1920年BostonにあるForsythe Clinicで卒業後の訓練を受けて資格を得た。

彼女のプロジェクトは生後から6歳児の早期年代に集中し、栄養が強調された。この事はCanadaで最初の試みで“Well-Baby Clinics”として後年呼ばれた¹⁴⁾。

1918年Canadian Dental Associationの年次大会がNational Dental Association (1922年American Dental Associationとなる)と共催され、この事はCanadian Dental AssociationがCanada以外の会議を開催した唯一の機会であった。この会議の議題の殆どが戦争に関するものであったが、1920年の会では戦後のPressuresとAdvancesであった。歯科診療の増加する要求に新しい評価が高まり、1919年Canadaの人口は8.75万人に対して歯科医2,590人で、Ontarioでは歯科医一人当たりに対する人口は2,292人、Quebecでは6,445人、British Columbiaは3,438人であった。

この不均衡を超えて新しい技術への挑戦が皮肉にも“戦争”によって加速された。

特に外科補綴の分野での発展は著しく、X-Ray

の診断能力も高まり、麻酔の改善された方法が可能となり、それらに伴う歯科教育の再教育の必要性が益々高まった。

文 献

- 1) 尾島光栄, K. K. SHIMIZU: カナダに於ける歯科教育の歴史 第1報—ブリティッシュ・コロンビア州を中心として—。歯医史 19 (3): 103~109, 1993
- 2) 尾島光栄, K. K. SHIMIZU: カナダに於ける歯科教育の歴史 第2報—歯科及び歯科教育の貢献者像—。歯医史 20 (2): 130~140, 1994
- 3) 尾島光栄, K. K. SHIMIZU: カナダに於ける歯科教育の歴史 第3報—1860~1869年間の歯科及び歯科教育の貢献者像—。歯医史 20 (3): 165~170, 1995
- 4) 尾島光栄, K. K. SHIMIZU: カナダに於ける歯科教育の歴史 第4報—1870~1879年間の歯科及び歯科教育の貢献者像—。歯医史 20 (3): 171~177, 1995
- 5) 尾島光栄, K. K. SHIMIZU: カナダに於ける歯科教育の歴史 第5報—1880~1889年間の歯科及び歯科教育の貢献者像—。歯医史 20 (4): 165~171, 1995
- 6) 尾島光栄, K. K. SHIMIZU: カナダに於ける歯科教育の歴史 第6報—1890~1899年間の歯科及び歯科教育の貢献者像—。歯医史 21 (2): 76~83, 1995
- 7) 尾島光栄, K. K. SHIMIZU: カナダに於ける歯科教育の歴史 第7報—1900~1904年間の歯科及び歯科教育の貢献者像—。歯医史 21 (2): 84~90, 1995
- 8) 尾島光栄, K. K. SHIMIZU: カナダに於ける歯科教育の歴史 第8報—1905~1909年間の歯科及び歯科教育の貢献者像—。歯医史 21 (4): 212~220, 1997
- 9) 尾島光栄, K. K. SHIMIZU: カナダに於ける歯科教育の歴史 第9報—1910~1914年間の歯科及び歯科教育の貢献者像—。歯医史 21 (4): 221~225, 1997
- 10) Gullett, D. W.: A History of Dentistry in Canada. The Canadian Dental Association by University of Toronto Press, pp. 150~164, 1971.
- 11) 本間邦則: 歯学史概説。 (株) 医歯薬出版, 東京, 昭和46年9月, 112頁。
- 12) Dominion Dental Journal, Vol. 30, No. 4, April 1918.
- 13) Dominion Dental Journal, Vol. 32, No. 9, September 1920.
- 14) Dominion Dental Journal, Vol. 35, No. 1, January 1923.

著者への連絡先: 尾島光栄

〒102 東京都千代田区富士見 1-9-20
日本歯科大学歯学部生理学教室
Tel 03-(3261)-8311 (内) 328
Fax 03-(3264)-8399